



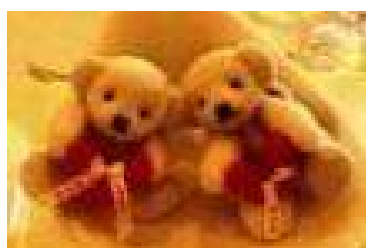
ICAN



Annual Report 2007 2007 年事業報告書

人々の「ために」ではなく
人々と「ともに」

www.ican.or.jp



2007年 事業報告概要

アイキャンは2007年も多くの個人、団体、企業、行政の「できること(ICAN)」を持ち寄って、様々な活動を展開してきました。ここに皆様への感謝をこめて、2007年のご報告をさせていただきます。

まず組織運営に関してですが、総会で決議されました通り代表理事が代わり、多くの理事が加わりました。これにより、より専門的に、そしてより多角的な見地より、運営が行われることとなりました。また、1994年より使用しておりました里親会員の名称を、国籍や経済的な力関係に影響されないパートナーとしてともに行動するという意味を持つキッズパートナーへと変更させていただきました。「アイキャン」も「事業地の人々」も「会員の皆様」も、かかわる全ての人が「ともに」よりよい社会を実現していくためのパートナーであるというアイキャンの理念を、より明確に表現できる名称になったと思います。そして2007年はより多くのネットワークに参加し、他団体との連携により大きな効果を生み出す可能性が高まった1年でした。

危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなう教育プログラムでは、例年通り一人でも多くの子どもが学校に行けるように通学支援と学校機能の強化を行いました。そして、ノンフォーマルとアドボカシー事業では、様々なNGOや行政、国連機関と連携し、「子どもの参加」を促進する活動に加わり、具体的な貧困削減の方法として、危機的状況にある子どもたち自身が主体となって自分たちの置かれた状況を訴えるための土台作りをしました。また、このような子どもたちの「こえ」を集めた本、「こどものこえ」を完成することができ、より多くの方々に共有できることになりました。

ごみ処分場周辺での地域開発プログラムでは、多くの方々のご理解を得て、老朽化したケアセンターの改築を実施することができました。これにより、フィリピン最大のごみ処分場に一番近い医療機関として、地域住民が主体となって実施する保健・医療活動を継続することができました。さらに住民とアイキャンは2010年には、資金運用等の事業運営面でも住民主体で行えるように目標を掲げています。これは、社会的にも意義深く大きな挑戦です。2007年はその最初の年となり、順調なスタートをきることができました。

相互理解を促進するプログラムの国際理解教育事業では、例年以上に幅の広い活動をおこない、多くの方に参加していただきました。フェアトレード事業でも、商品と取扱店舗が増加し、貧困問題の啓発、及びアイキャンの理念と活動を広める多くの機会をいただきました。また、2007年はボランティアの皆さんの活動が活発になり、勉強会や街頭募金、自主イベントを開催するなど、ボランティアの皆さんが活躍した一年となりました。

運営資金面に関しましては、当期(2007年1月～12月)収入は25,086,349円、支出は25,647,257円、そして2008年への繰越金は5,617,827円となっております。収支差額の理由は、会費収入が予定していた程伸びなかったこと、フィリピン国内の物価上昇、為替レート的大幅な変動等が挙げられます。詳しくは、収支計算書をご覧ください。

アイキャンでは例年詳細な事業報告・会計報告をおこなっております。これは、事業地の人々や会員の皆様、賛同者の皆様、アイキャンに関わるすべての方々ができるだけ多くの情報を共有し、「ともに」アイキャンという運動体を作り上げて行きたいという想いから来るものです。これからも国籍や人種、性別や経済的地位を超えて、一人ひとりが「できること(ICAN)」を持ち寄って、よりよい社会を構築していきたいと願っております。

**Not 'for' the People,
but 'with' the People**

人々の「ために」ではなく、
人々と「ともに」

アイキャンは貧困や紛争のない平和な社会を実現するために、一人ひとりの「私のできること(ICAN)」を持ち寄り、「貧しい」と言われている人々、抑圧されてきた女性、危機的状況に置かれた子どもたちと「ともに」活動しています。



特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター・ICAN(アイキャン)

設立:1994年4月1日

郵便番号:453-0021

住所:愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地
地域密着型ビジネス支援施設内N103
(名古屋駅から地下鉄東山線で2駅目にある「本陣駅」
3番出口から徒歩1分になります。)

*2008年4月1日より、事務所が新しくなりました。

電話番号&FAX:052-908-9314

Eメールアドレス:info@ican.or.jp

ホームページ:http://www.ican.or.jp

郵便振替:00850-6-78233

【代表理事】

田口京子 養護学校教諭

【理事】

雨森孝悦 日本福祉大学教授、日本NPO学会理事、
(特活)シャプラニール監事

伊藤洋子 (特活)SHARE(シェア)東チモール駐在員

奥園由紀子 翻訳コーディネーター

小園直樹 地球アカデミア運営委員、会社員

鈴木真帆 (財)結核研究所 フィリピン駐在員

高畑 幸 広島国際学院大学現代社会学部教員、
フィリピン学会所属

高野 翔 国立フィリピン大学大学院

早川 潔 会社員

松浦宏二 (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン
リエゾン事務所プログラムオフィサー

宮脇聡史 東京基督教大学准教授、文学博士、
フィリピン学会所属

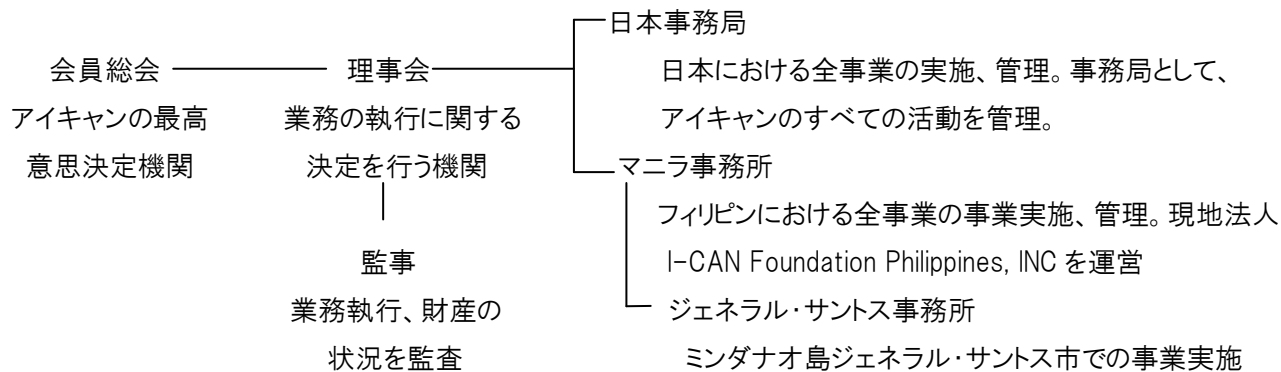
【監事】

龍田成人 名古屋 NGO センター副理事長、工学博士

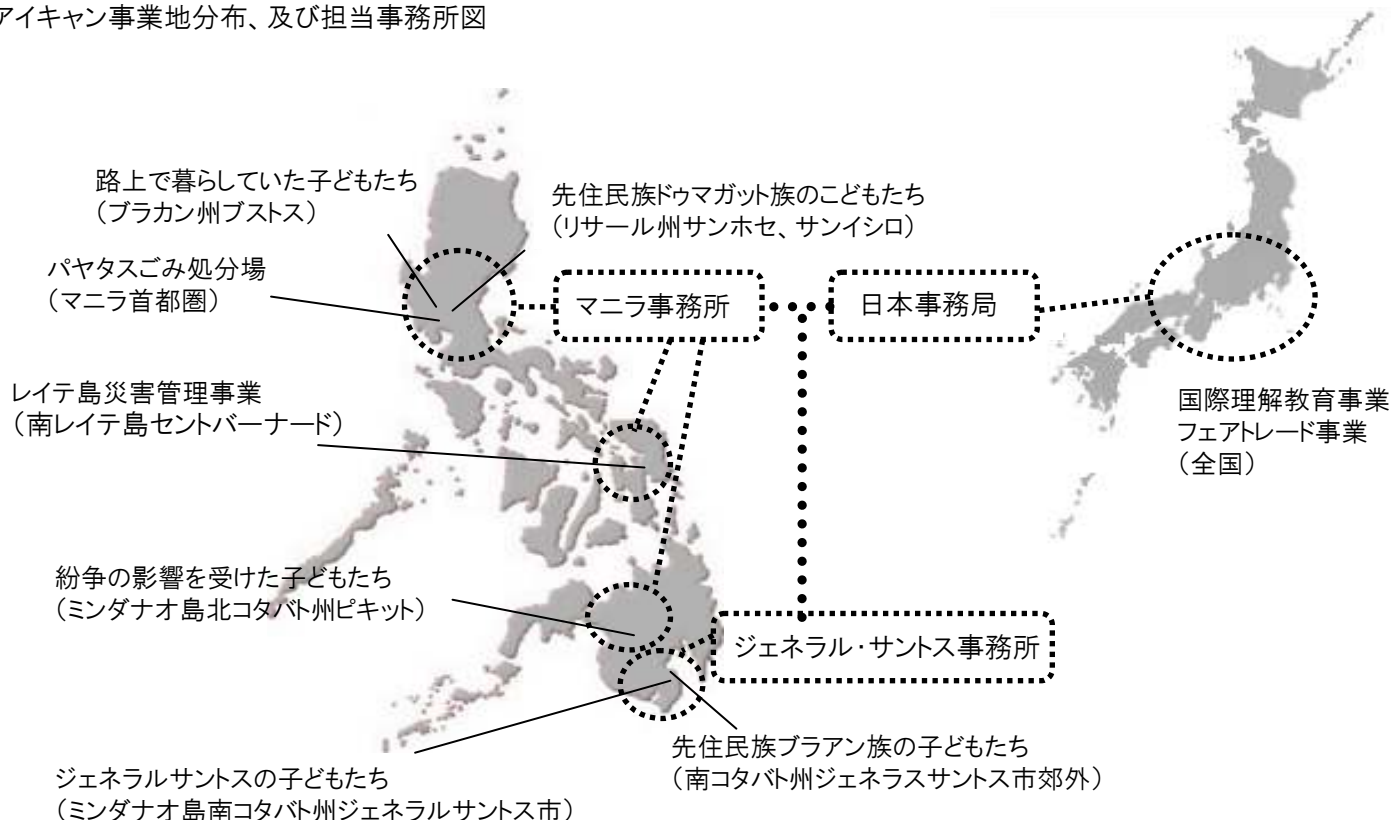
林 俊彰 税理士



組織図



アイキャン事業地分布、及び担当事務所図



アイキャンの3つのプログラム

子どもたちが学校に通えるようになり、一人ひとりの生活環境が向上します。

I、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなう教育プログラム

- 1、フォーマル教育支援事業(通学支援)
- 2、ノンフォーマル教育事業(総合学習)
- 3、アドボカシー事業(子どもの参加を促進する事業)



II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム

- 1、パヤタスでの保健・医療事業
- 2、パヤタスでの生計向上事業



III、相互理解を促進するプログラム

- 1、国際理解教育(開発教育)事業
- 2、フェアトレード事業



ごみ処分場周辺で住む人々が健康になり、暮らしが向上します。

豊かな市民社会を創る担い手を育成します。

●参加ネットワーク●

ネットワーク・団体名	所 属 ・ 担 当	詳細
(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)	正会員	・全国規模のネットワーク型NGO ・「アカウントビリティセミナー」にリソース団体として参加
(特活)名古屋NGOセンター	正会員	・中部地域のネットワーク型NGO ・「NGOスタッフになりたい人のための研修」 (通称:Nたま)研修生受入
2008年G8サミット NGOフォーラム	サポートNGO	・G8サミットに向けて結成したNGOネットワーク ・「貧困・開発」ユニットに参加。
フィリピン日本パートナーシップ(PJP)	メンバー	・フィリピンNGOと日本NGOが集うネットワーク ・マニラで開催したシンポジウム及びトレードフェアに参加
在フィリピン日本NGO懇談会	世話人	・在フィリピン日本NGO間の緩やかなネットワーク を築くための懇談会 ・世話人のうち、3名がアイキャンから参加。
CWC(Council for the Welfare of Children)	メンバー	・子どもに関する開発や福祉に関わるフィリピン政府 機関やNGOが参加するフィリピン政府主導のネット ワーク団体 ・「子どもの参加」を勧める一連のワークショップに参加。

●助成事業・委託事業のパートナー●

団体・機関名	事業名・事業内容
外務省：日本NGO支援無償資金協力 (2006年10月～2007年10月)	パヤタス地区における地域型保健プログラム (パヤタスコミュニティケアセンターの改築、コミュニティヘルスボランティア の組織化、保健医療サービスの提供)
(財)庭野平和財団 (2006年11月～2007年10月)	フィリピンにおける「危機に晒されている子どもたち」の調査とシンポジウム 等の開催
(特活)名古屋NGOセンター (2007年2月)	「NGOスタッフになりたい人のための研修」(通称:Nたま)のフィリピン海 外研修受入
(財)日本国際協力システムズ(JICS) (2007年2月～2008年2月)	地域型保健医療・生計向上プロジェクトとそれを支える本部の基盤強化 (事業及び会計報告作成の迅速化、ボランティア推進チームの販売促進 企画の実施)
(財)ひろしま・祈りの石国際教育交流財団 (2007年3月～2008年2月)	フィリピンミンダナオ島における平和と癒しの教育事業：元紛争地の住民に よる平和構築
(財)愛知県国際交流協会(AIA) (2007年4月～2008年3月)	ジェネラル・サントスの子どもを対象とした通学支援
外務省：NGO専門調査員 (2007年5月～2008年3月)	調査：日本のNGOが実施する参加型開発事業の実態について
(独)国際協力機構(JICA)： 草の根技術協力パートナー型 (2007年11月～2010年10月)	パヤタス地区における地域型保健事業および生計向上事業 -ごみ処分場閉鎖対策として-(「住民が運営する医療事業」の総仕上げ、 雇用確保のための生計向上事業の実施)

●フィリピンNGOのパートナー● (協同実施をしている団体のみ)

団体・機関名	事業名・事業内容
Balay Rehabilitation Center, Inc	教育プログラム ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち
Bahay at Yaman ni San Martin de Porres	教育プログラム ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち

(他多数)

2007年活動スケジュール(一部のみ記載)

1 月

2 月

3 月

4 月

5 月

6 月

I、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなう教育プログラム

業務開始
各事業地にて
打ち合わせ

ピキット各学校
ニーズ分析

卒業式

こども合宿
ジェンサンこども集会
子どもたちへの
学用品の提供
ブラアン族の
子どもが通う高
校にて会議

始業式
ブストスニュー
スレター発行



通年

全事業地での活動やモニタリング
(詳しくは、各事業の報告をご覧ください。)

II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム

業務開始
国連関係者
会議

外務省会議

子宮がん検診
歯科検診

寄生虫駆除
JICA 会議
外務省中間
報告書提出

ビタミン A 投与

協同組合
成功例訪問

通年

事業地での全活動やモニタリング
(詳しくは、各事業の報告をご覧ください。)
在フィリピン日本 NGO ミーティング(月1回)



III、相互理解を促進するプログラム

業務開始

N たま海外研修
受け入れ
マニラ日本人学
校での講演

フィリピン人
スタッフ来日

森崎帰国
報告会
名古屋大学
講師派遣

各高校への
講師派遣

通年

事務所訪問受け入れ
各学校にて講師派遣
フェアトレード在庫整理、新店舗開拓



私のできること「アイキャン」

ハロハロ際

街頭募金

アースデー
連合フェスティ
バル

はじめまして
ICAN

通年

イオンイエローシートキャンペーン
名古屋地域でのボランティアグループ会合(ICAN 探検隊)
各イベントでのブース出展
両事務所でのボランティア



7月

8月

9月

10月

11月

12月

異文化理解
ワークショップ
ピキットニュー
スレター発行
プランの給
食校でヤギ飼
育開始

ピキット事業
中間評価
フィリピン教育
省との協議
地域の平和構
築の式典参加

JBIC との会議

ミンダナオ平和
イベント開催
フィリピン子ども
月間活動準備
ジェンサン子ども
の成長記録
作成
子ども保護者
集会

CWC(フィリピン
子どもの福祉
評議会)ワーク
ショップ

ブストスニュー
スレター作成
準備
評価会議、次
年度計画会議



協同組合
勉強会

JICA 会議
朝日新聞取材
大使婦人、EU
関係者訪問

ケソン市市長と
の会議

妊婦検診
ケアセンター完
工式
協同組合議会
ケソン市保健
局会議
JICA 会議

結核予防会と
の会議
JICA 情報交換
会

預かり保育
協同組合選挙
大使公邸での
式典
JICA 保健医療
研修



名古屋タイム
ス取材

炊き出し体験

理事による
事業報告会



ICAN
リフレッシュ
フィリピン語
講座
フジロック出店
外務省主催ア
カウンタビリティ
セミナー派遣

街頭募金開始

全国ボランティ
アフェスティバル

グローバルフェ
スタ
トヨタロックフェ
スティバル
NPO 祭り
ワールドコロバ
フェスタ

国際協カシン
ポジウム
学園祭出店
バザー



Ⅰ、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなう教育プログラム

1、フォーマル教育支援事業(通学支援)



a、ジェネラル・サントスの子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口41万人、世帯数9万の地方都市です。ツナやパイナップル、ココナッツなどの魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人が最低限の生活状況のなかにいます。毎年のように市内で無差別爆破事件が起こり、治安情勢も不安定です。アイキャンは同市に住む経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの通学支援を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が管理運営、ジェネラル・サントス事務所が実施

(3) 実績

1) 教育支援

1月から5月までは135名(小学生64名、高校生64名、大学生7名)、6月から12月までは108名(小学生46名、高校生57名、大学生5名)の子どもたちの教育支援を行いました。通学に必要な制服、学用品、かばん、靴などを直接支給し、また学費、通学交通費、プロジェクト費、野外活動参加費、卒業経費を補助しました。3月、4月には、小学生15名、高校生12名、大学生(職業訓練校)1名が卒業しました。

2) 緊急支援

子どもが虫垂炎などの入院を要する病気、けがにあった場合、また保護者に不幸があった場合に緊急支援を行いました。

3) モニタリング

ジェネラル・サントス事務所スタッフによる家庭訪問、学校訪問、保護者、子ども、学校関係者とのミーティングにより、子どもの態度や成績について進捗を得ながら、一人ひとりの子どもが抱えている問題の解決に取り組みました。

「子ども集会」：マニラ事務所スタッフ、ジェネラル・サントス事務所スタッフ、子ども、保護者、教師が集まり事業評価を行うとともに、事業計画の確認を実施しました。

「子ども表彰式」：卒業生や学業成績の優秀な子ども、学校外の活動に意欲的に取り組んでいる子どもを表彰しました。

4) プロGRESSレポート発送と手紙やカードでの交流

年2回(8月、12月)、子ども全員の成長記録を日本のパートナーさんに届けました。また、延べ48人の日本のパートナーさんからの手紙やカードを、子どもたちに届けました。

(4) 特記事項

今年度は、大学生を中心とした年長の子どもたちが、積極的に活躍した1年でした。日本のパートナーさん宛てのPROGRESSレポート(成長記録)の作成活動や子どもと保護者らが集合する「子ども集会」で、コーディネーターとして活動しました。また年長の子どもが幼い子ども数人の担当となり、グループ毎に家庭環境や学校での悩みを相談できるスペース作りを始めました。

(5) 2008年への展望

大学生の子どもたちの活動の幅をさらに広げ、同市郊外で当法人が実施するブラン族の子どもたちが通う学校の給食事業とシナジー(相互作用)効果をもたらしていくことが望まれます。



b、ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島北コタバト州ピキット周辺では、長年続いてきた紛争の影響で約60%の住民が住みなれた土地を追われ、学校等社会インフラが荒廃し、人々の生活基盤が崩壊しました。ミンダナオでの紛争は現在も続いているますが、この数年ピキットでは紛争は落ち着き、復学を望む子どもの数は激増している一方、破壊された学校施設の復旧は遅れています。アイキャンは、子どもたちが再び学校に通えるように、壊れた校舎の修復や学校設備の充実、そして地域平和活動等の教育事業を実施するとともに、ミンダナオの平和を祈るイベントを実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が管理運営、フィリピンのNGO、Balay Rehabilitation Center, Inc(以下、バライ)と共同実施

(3) 実績

1) 学校環境整備を通じた教育支援

- タリタイ小学校、ブロード小学校、バゴイングド小学校、ブリオク小学校、バロンギス小学校において、教師や保護者たちとともに、教員室や教室の増設、平和センターを兼ねた多目的スペースの建築等を行いました。
- 上記の5つの学校に、カバサラン小学校とプロル小学校2校を加えた計7校に、文具やスポーツ用品を提供しました。

2) 学校における平和式典の開催や異文化異宗教間交流など、住民主体の地域平和活動を実施しました。

3) ミンダナオ島の平和を祈る一週間開催(日本)

- パートナーNGOバライの職員をゲストスピーカーとして日

本に招聘しました。

- 以下4会場で講演会、シンポジウムを開催しました。

10月18日東京都文京区、19日東京都三鷹市、19日東京都渋谷、21日愛知県名古屋市 参加者数延べ149人

4) モニタリング

マニラ事務所スタッフが、バライ本部事務所、キダパワン事務所、ピキット事業地にてモニタリングを行いました。

5) ニュースレター発送と手紙や絵での交流

10月にパートナーさんへニュースレターを届け、逆に日本のパートナーさんや日本の中学生からのお手紙や絵を子どもたちに届け日本の文化紹介をおこないました。

(4) 特記事項

地域の政情の見通しが立たず、出入りが危険と判断される事業地では、モニタリングが困難な時期がありましたが、そんな状況のなかでも、フィリピン教育省や地方政府と連携し、学校により異なるニーズに臨機応変に対応した事業の展開ができました。日本国内では、シンポジウムの開催により、ピキットの人々の経験を広く日本の一般市民や関連機関と共有し、今後の事業の発展性や可能性を探る貴重な機会となりました。

(5) 2008年への展望

今年度まで学校を舞台に、子どもと先生を中心に事業を進めることができました。今後は、より多くのコミュニティ住民の参加を促進し、地域ベースの平和創りをより包括的なものに成長させていきます。紛争の被害にあった人々の「声」を大きくするため、地域平和活動、事業地からの情報発信、そして事業地外での平和イベントを充実させていきます。



c、ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち

(1) 事業概要

フィリピンでは約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされており、多くの子どもたちは路上での物乞いや、物売り、小売業や乗り物の運転手の補助、廃品回収業や車の見張り、性産業等により生きる糧を得て、命の危険と隣り合わせの生活を送っています。その中には、空腹を満たすためにシンナーを吸引したり、辛い生活を紛らわせるために麻薬やアルコールに手を出したり、生き残るためにギャングの一員となって罪を犯してしまう子どもたちもいます。アイキャンは、このような路上での苛酷な環境での生活を強いられている子どもたちが一人でも多く愛情あふれる環境で生活し、通学できるように、路上での生活を余儀なくされてきた、あるいは路上で働かざるを得なかった子どもたちに、教育と養育の支援を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が管理運営。「子どもの家」を運営するフィリピンのNGO、Bahay at Yaman ni San Martin de Porres(以下、サンマルティン)と共同実施。

(3) 実績

1) 通学支援

高校生1名、小学生9名が「子どもの家」から学校に通えるように、学用品・制服・学校諸費、課外活動諸費、養育にかかる費用等を支給しました。

2) モニタリング

マニラ事務所のソーシャルワーカーが随時子どもへのカウンセリングを行い、一人ひとりの子どもが抱えている問題の解決に取り組みました。また、サンマルティンのスタッフと共同

で、離散した子どもの家族探しを行いました。

3) ニュースレターの発送

6月に日本のパートナーさんへ、子どもたちの様子を伝えるニュースレターを届けました。

(4) 特記事項

前年度に引き続き、多くの子どもたちが、成績優秀者として名誉賞を授与されたり、飛び級テストに合格するなど、一度路上生活中に学校から離れた過去を取り戻すべく、子どもたちは学業に集中していました。また学業以外も、楽器演奏をはじめ、様々な活動に活発に参加していました。日本のパートナーさんへのニュースレター作成を、子どもたち自身が主体的に内容を決め、彼・彼女たちの伝えたいことを中心に製作する方式に移行しました。これにより、ニュースレター作成を、子どもたち自身が主体的に「声」をあげる活動の一環として位置付けていきます。

(5) 2008年への展望

路上で生活してきた子どもたちが、過去の経験と立ち向かいそれを乗り越えていくためには、常に学び成長できる通学環境や心身ともに安定した日常生活が与えられると同時に、自分の経験を見つめ返し、人と共有し、それを再認識し消化していくことが必要です。2008年は、元路上にいた子どもたちが現在も路上にいる子どもへの炊き出し活動をおこない、路上の子どもの空腹を満たすとともに、元路上にいた子どもたちの経験を共有できる場を作り出していきます。



d、ジェネラル・サントスの先住民族ブラアン族の子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の村に住むブラアン族は、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業として、山岳地帯に住んでいる先住民族です。人々は、1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされており、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなっていく中、食にこと欠く家族も多いのが現状です。子どもたちの多くは空腹により通学意欲を失い、せっかく入学しても途中で退学し、卒業まで通学できる子は一握りにすぎません。学校から遠ざかった子どもたちは、親とともに農業に従事したり、村を出て市内中心部で、家事手伝いなどの仕事に就き、法外な低賃金を稼ぎながら、苦しい家計を助けます。このような状況を改善するために、アイキャンは空腹のため勉学に集中できない子どもたちの通学意欲を高めることを目的として、2つの小学校において学校給食を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が事業管理、運営。ジェネラル・サントス事務所が学校教員、PTAと協力して実施。

(3) 実績

1) San Jose (サンホセ)小学校

実施回数合計(1月～12月) 37回

対象児童:100名

2) Daan Banwang(ダアン・バンワン)小学校

対象児童:100名

実施回数合計 (1月～12月) 22回

3)やぎの飼育

サンホセ小学校では、より持続可能な給食事業を目指して、新たにやぎ飼育を通じた生計向上活動の取り組みを始めました。やぎを繁殖させて販売し、その収入を給食をはじめとした学校の必要経費に充てる試みです。やぎ飼育は、教師たちとPTAをはじめ村の人々が学校敷地を利用して行っています。7月にやぎ3頭を購入し、12月末には、子やぎが2頭生まれ、現在5頭となりました。

4) モニタリング

スタッフが子どもたちや学校関係者、生徒の保護者との協議を行い、改善点・課題などを話し合いながら事業を実施しました。また、村に宿泊しブラアン族の文化や歴史、生活、子どもたちの様子についての聞き取りを行いました。

(4) 特記事項

両校において、98%以上の平均出席率を達成し、事業は順調に進められました。やぎ飼育は、教師や親が集まり、やぎが風雨をしのげるように持ち寄りの材料で小屋を作るなど、チーム形成の場にもなりました。

(5) 2008年への展望

2007年から開始したやぎ飼育の活動は、本給食事業をより持続的に、効果的に実施していく上で重要な活動です。この教師と村人たちの活動を充実させ、将来給食経費をまかなうのみならず、村や学校の機能充実に役立てていくことが期待されています。また、同じジェネラル・サントスの中でも、中心部に住む人々と村の先住民族の人々の間には、交流も薄く、差別や偏見が存在しています、そこで市内のアイキャン奨学生たちとブラアンの子どもの間での交流の場を創り、異文化理解の促進をはかるなど、差別や偏見を解消する活動が必要とされています。



e、サンイシロの先住民族ドゥマガット族の子どもたち

(1) 事業概要

リサール州アンティポロ市にあるサンイシロ村には、先住民族(ドゥマガット族)の血をひく人々が多く住んでいます。人々は主に焼畑や稲作などの農業で生計をたてていますが、毎年コミュニティ全体が食糧不足に陥ったり、雨季になると地理的に孤立してしまうなど、厳しい環境に置かれています。そのような中、子どもたちは舗装されていない泥道を片道2時間以上毎日歩いて高校に通っていますが、家計を助ける為に労働に借り出されたり、学校での諸経費の支払いができなくなるなどの理由で、通学を断念するケースが多いのが現状です。アイキャンはこのような先住民族の子どもたちが一人でも多く学校に行けるように通学支援を行い、地域の生活環境自体を改善するために村の人々と地域活動を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が村の住民組織MASAKAや学校の教師と連携して事業を実施、管理。

(3) 実績

1) 教育支援

2007年は高校生11人で開始し、4月に4人が無事卒業しました。新規奨学生1名を加えた高校生8名に対し、学用品・制服・学校諸経費、卒業手続き費用の提供を行い、通学を支援しました。

2) 住民組織MASAKAを通じた活動

住民組織MASAKAが集落に豊富にある資源(家畜の排泄物やマメ科の植物の葉など)を活かし、バイオガス(電気に代わる燃料、そして有機肥料としての効果)作りとともに取

り組みました。また、MASAKAはあらかじめ定款で決められていた代表交代の選挙を実施しました。

3) モニタリング

子どもと保護者、村の人々、教師とのミーティングを、集落やアンティポロ市内にて行うとともに、家庭訪問を随時行いました。

(4) 特記事項

2007年には4名の奨学生が無事卒業できました。奨学生の両親たちはほとんど高校卒業できなかったため、子どもたちの晴れ姿にとっても喜んでいました。下級生の奨学生たちにとっても困難な状況の中上級生が卒業できたことは大きな励みとなりました。雨季の豪雨によって生じる山道の液状化のため、現在まで雨季は往復6時間ほど裸足で山を歩いて事業モニタリングを行ってきましたが、その難しさを軽減するために、今年度は学校の先生との連絡をより密におこない、子どもたちの状況を把握する仕組みを確立しました。

(5) 2008年への展望

2007年に行われたバイオガスの活動など、村の人が村の資源で燃料を作ったり、村の農業を強化していくなどの地域での活動を継続するとともに、強化された学校との関係を活かして、学校内での生計向上の活動を実施していき、学校機能の強化にも努め、より包括的に子どもたちの生活環境を向上していきます。新規に教育事業に参加する子どもの選定も地域だけではなく、学校とともに行うとともに、子どもたちの学校内での勉強態度を把握したり、学校内の悩みを解決できるように、よりきめの細かい教育事業を実施していきます。

2、ノンフォーマル教育事業 3、アドボカシー事業(=子どもの参加を促進する事業)



(1) 事業概要

アイキャンが事業の中で出会ってきたのは路上の子どもたち、身体的障がいを持つ子どもたち、自然災害の被害を受けた子どもたち、紛争の被害を受けた子どもたち、先住民族の子どもたち、海外出稼ぎ労働者の子どもたち、ごみ処分場周辺に住む子どもたちなど、危機的な状況に置かれた子どもたちでした。これらの子どもたちは単に教育や医療等の社会サービスへのアクセスが欠如しているのみならず、経済・政治・社会文化といった枠を超えて包括的に「力」を発揮できない場所に置かれた存在と言えます。そしてその「力」の欠如こそが、子どもたちを統計にも反映されない「声のない存在」へと追いやり、直接的間接的な暴力(紛争や貧困等)に寛容な社会を作り出しています。

この認識に立脚し、アイキャンは貧困削減の具体的な1つの方法として「子どもの参加」を促進し、危機的状況に置かれた子どもたち自身が、自分たちの目でみた社会を自分なりに分析し、自身の言葉で表現し、伝える力を養いました。

(2) 実施体制

フィリピンの様々なNGOや政府機関であるCWC(Council for the Welfare of Children)、UNICEFと連携して、マニラ事務局が事業実施、管理。

(3) 実績

1) 「アイキャン子ども合宿」開催(5月)

「アイキャン子ども合宿」を開催し、32名(ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち6名、サンイシロの先住民族のドウマガット族子どもたち11名、パヤタスごみ処分場周辺に住む子どもたち15名)が参加しました。自分自身について、またコミュニティについて、その特徴や長所・短所、将来の理

想の姿を、絵や劇等の手法で表現しました。

2) カパティランキャンプ参加(5月)

ブストスに住む路上で生活していた子どもたち10人をはじめ、パヤタスごみ処分場周辺に住む子どもたち12人は全11団体、子どもたち約500人が参加し、「子どもの権利」を学ぶキャンプに加わりました。

3) 子ども月間ウォーク参加(10月)

パヤタスごみ処分場周辺に住む子どもたち70名が子どもの権利を訴える行事に参加しました。

4) フィリピン国レベルの子どもの参加促進

NGO、政府機関、国連機関と連携し、フィリピンの国レベルで子どもの参加促進について議論し、諸団体の経験について互いに共有しあいました。

(4) 特記事項

「アイキャン子ども合宿」では様々な背景を持つ子どもたちが期間中共に寝起きをすることで絆を深め、自分や友達に住む環境(路上や村、ごみ処分場等)について訴えました。来年から開催する「アイキャン子ども議会」では、それぞれの地域のノンフォーマル教育で共有された経験を、各地域からの代表者が表現していきます。今年はその土台作りを行いました。

(5) 2008年への展望

子どもの権利の勉強会や「アイキャン子ども合宿」に、より多くの地域から危機的状況にある子どもたちが参加できるようにし、子ども自身がファシリテートを努める「アイキャン子ども議会」としてまとめあげていきます。フィリピンの国レベルでは他機関・団体と連携を加速し、より「子どもの参加」の普及に努めていきます。

II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム

1、パヤタスでの保健・医療事業 2、パヤタスでの生計向上事業



(1) 事業概要

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があり、周辺には約1万人が生活しています。ごみ処分場でリサイクルできる資源を回収し販売することで生計をたてようとしている人が約3000人いますが、その収入は法定最低賃金の1/3程度しかなく、必要最低限の暮らしを保つのも困難な状態です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害を受けていますが、適切な治療へのアクセスが限られています。このような背景から、アイキャンは処分場に近い場所にケアセンターを建て、医療と生計向上の事業を実施しました。2007年までに、医療事業は住民の中で地域の保健環境向上に強い関心を持つコミュニティヘルスボランティア(CHV)と呼ばれる住民ボランティアがほとんどの活動を担う体制になっています。2010年には事業の運営も住民に移行できるよう、2007年は母体となる協同組合設立が始まりました。

(2) 実施体制

2007年はJICAの草の根パートナー事業として、JICAとの連携を深めマニラ事務所が事業実施、管理。

(3) 実績

1) 新コミュニティケアセンター完成

10月に新コミュニティケアセンター建設が完成し、患者待合室と診察室、薬保管室、妊産婦検診室、給食用の部屋など、用途別にスペースを活用することが可能になりました。

2) 保健・医療活動

① 定期診療（毎週火・土）

93回実施、患者数延べ3167名(うち17歳未満男性983名、女性1202名、17歳以上男性247名、女性735名)

② 妊産婦検診(月2回) 10月より開始。

5回実施、患者数延べ72名

③ 地区巡回診療（月1回）

コミュニティを巡回し、新生児を含む子ども、妊婦の検診、予防接種(ジフテリア、BCG、肝炎、はしか、OPV、破傷風)、ビタミンA投与等を実施しました。

④ 結核対策DOTS(直接監視下短期化学療法)

住民が訓練を受け、DOTSパートナーとなって、小児結核を含む結核患者の毎日の服薬を確認するなど、地域に根ざした結核対策を実施。患者と家族を対象に、保健教育を行いました。

⑤ 外部診療補助（随時）

高度な治療を必要とする患者に、検査費や交通費、医療費の補助、通院付き添い等の外部診療補助を提供しました。心臓病、肺炎、小児結核、チフス等の疾患に対応しました。

⑥ コミュニティヘルスボランティア(CHV)への医療費補助
病気感染の可能性の中、ボランティアで医療活動を担う住民を対象に、交通費支給や胸部レントゲン検査等の補助を実施。

⑦ 特別医療活動

No.	活動	実施数	受診者数
1	子宮ガン検診	1回	67名
2	体重測定	5回	435名(子ども)
3	割礼手術	2回	32名(男児)
4	寄生虫駆除	6回	1389名
5	歯にフッ素を塗る活動	1回	107名(子ども)
6	ビタミンA投与	6回	1263名
7	はしか予防活動	3回	201名



⑧ 保健教育

- 定期診療の待ち時間中の患者たちを対象に、結核や風邪の咳の違い、デング熱等の感染症の症状と対策など病気に関する知識を伝えました。10回、1290名。
- 青少年教育活動の子どもたちが、健康や栄養、寄生虫症等の知識を深めました。10回、161名。
- 栄養改善活動に参加する母親を対象とした母親学級を月1回の計12回行い、のべ223名が参加しました。テーマは乳幼児の発育や、家族計画、肺炎、耳の感染症、コレラ予防、小児結核、子どもの養育に関する注意点、乳がんの自己検診法、予防接種など。

⑨ コミュニティヘルスボランティア(CHV)対象トレーニング 11回、73名。テーマは妊産婦の健康、応急処置、血圧、幼児の栄養状態、栄養の基礎知識、授乳、結核治療、プライマリーヘルスケアなど。その他、栄養改善活動に参加する母親達との合同セミナーも2回行いました。テーマは、女性への暴力、地域保健分野における女性の役割。計35名。

⑩ 栄養改善活動・預かり保育

栄養不良の乳幼児や小児結核を患っている子どもたち(1日平均約25名)を対象に、月曜から金曜まで週5日、栄養価の高い補助食を与え栄養状態の改善を行いました。また2008年から開始する預かり保育の準備として、プロファイルングを実施しました。

⑪ ネットワーキング

balanガイヘルスセンター(公的医療機関)、ケソン市保健局、フィリピンポリテクニク大学(PUP)、日本結核予防会、(独)国際協力機構(JICA)との協力体制を強化しました。

(JICA主催フィリピン情報交換会事例発表11月)

3) 協同組合設立

住民による住民のための保健・医療システム確立を目指し、協同組合の組織化を行いました。

- ① 協同組合オリエンテーション 8回、167名
- ② 協同組合成功例訪問研修 3回、50名
- ③ 役員選出仮選挙の開催 仮役員計23名選出。
- ④ 登録支援 協同組合登録に必要な定款作成作業。
- 4) 生計向上事業
訓練ニーズ調査(TNA)コアグループ対象 27名
- 5) 青少年活動 毎週土曜、47回(毎回約70名)

(3) 特記事項

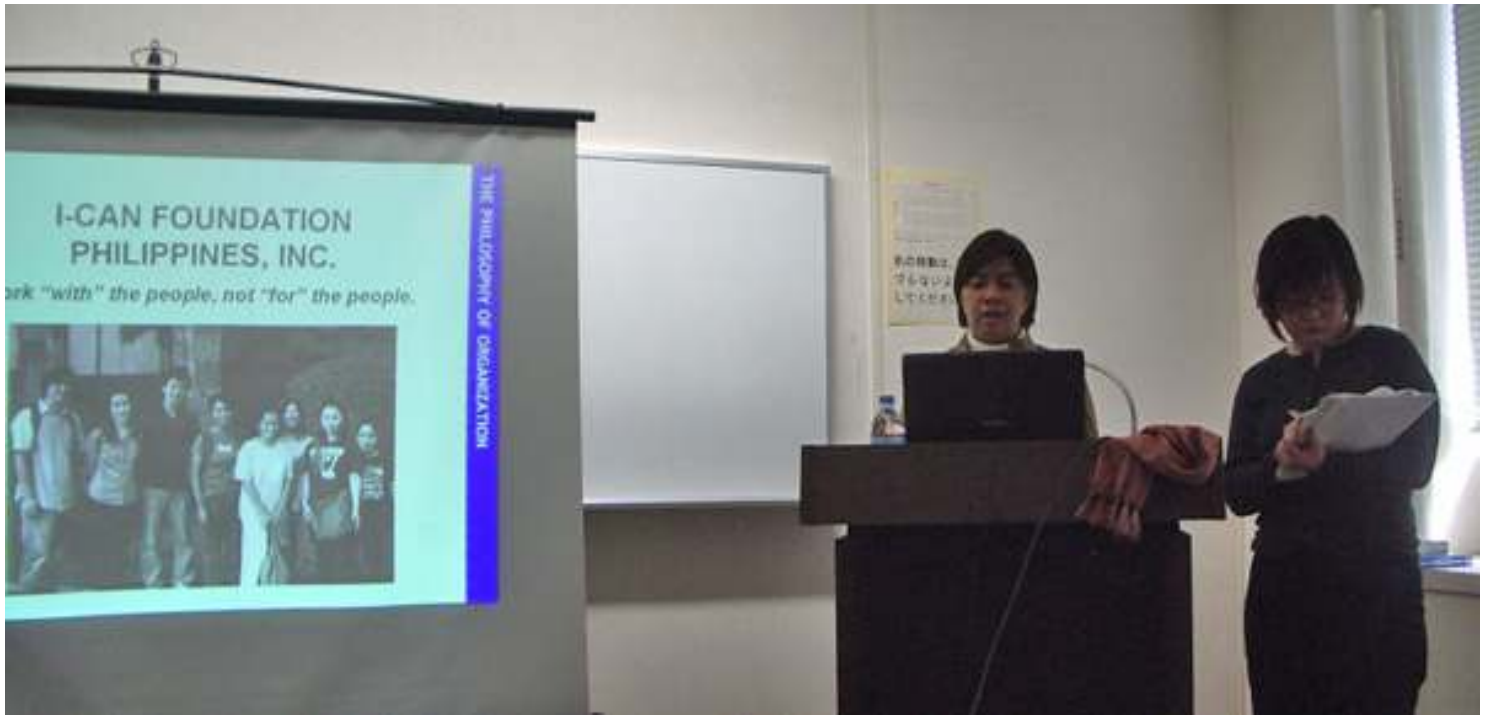
新コミュニティケアセンターが多くの人々の協力により完成し、より効率的で安全な環境で保健・医療活動が行えるようになりました。協同組合設立に向けては、世界でも稀な協同組合学部を持つフィリピンポリテクニク大学(PUP)やJICAの協力のもと、コミュニティヘルスボランティア(CHV)と栄養改善活動に参加する母親たちが積極的に準備を進めています。

(4) 2008年への展望

ごみ処分場からの生計はより不安定なものとなっており、その中で住民が協同組合の組合費を蓄積するためにも、住民の生計が向上する必要があります。その為、2008年は生計につながる技術訓練を過去最大規模で実施していく予定です。医療サービスの内容はより充実させることができました。その運営を担う協同組合設立では、仮役員がそれぞれの役割を全うできるように、スタッフも二人三脚で作業を進め、組織としての機能を徐々に上げていきます。

Ⅲ、相互理解を促進するプログラム

1、国際理解教育(開発教育)事業



(1) 事業内容

幅広い事業を行うアイキャンの特性を活かし、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に立った、社会問題の理解につながる教育事業を目指しました。このような社会問題を「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人が増えることが、貧困や紛争のない平和な社会を実現につながります。そのため、問題だけに焦点を当てるのではなく、そのような立場に置かれた人々とともに汗をかき、「できること(ICAN)」を持ち寄って、活動する中から理想の社会を「ともに」描いていくことを目指しました。

(2) 実施体制

日本事務局が全体の管理を行い、報告会や海外研修はマニラ事務所が、その他の活動は日本事務局とボランティアが中心に他機関・団体と連携の上実施。SPNPが生産。

(3) 実績

1) 学校での授業 8件

名古屋大学、若水中学校、青海中学校、高蔵高校、東邦高校(2回)、明和高校(2回)

2) イベントなどでのワークショップ・講座・その他 5件

パートナーシップサポートセンター、ローターアクト熱田今池まつり、名古屋南ロータリークラブ例会、CDIC未来塾、国際協力シンポジウム、

3) 事務所訪問受け入れ 15件

明祥中学校、犬山南部中学校、蒲郡中学校、犬山中学校、天神山中学校、名古屋大学附属中学校、愛知高校(3回)、同朋高校、光が丘高校、愛知県立大学、滋賀県立大学、

ボランティアネイバーズ、わっぱの会

4) 自主企画

1月:常夏ハロハロ祭、3月:フィリピン人スタッフテス報告会(2回)、4月:国際交流花展マニラ事務所スタッフ森崎報告会、5月:初めまして! ICAN、7月:ICANリフレッシュ、タガログ語講座、8月:炊き出し体験、9月:パヤタス報告会、10月:初めまして! ICAN、理事鈴木、高野報告会

5) フィリピン子どもたちへの文具寄付による交流
学校・団体から10団体、個人から9名

6) 海外研修の受入れ

① 名古屋NGOセンター(通称Nたま研修)

② 名古屋学院大学 8月

(4) 特記事項

2007年は、開催地も多岐に渡り、参加者の層も様々で、活動の幅が広まった1年となりました。また、ボランティアが中心になって事業説明会やイベントを開催するなど、より多くの人が主体的に関わることができました。路上生活者への炊き出し活動を開始したことは、「フィリピンの『貧しい人』のことを伝える開発教育」から脱皮し、「社会の中で弱い立場におかれた人々とともに活動し、人々から学ぶ開発教育」の実践となりました。

(5) 2008年への展望

フィリピンの危機的状況に置かれている子どもや女性たちの厳しい現状を伝えるだけでなく、国籍や文化を超えて、夢や可能性をともに考えられるような開発教育教材を製作していきます。また、国内の路上生活者の方々や在日フィリピン人など、より身近な、＜厳しい状況にある＞人々とともに活動し、学ぶことに焦点を当てていきます。

2、フェアトレード事業



(1) 事業内容

アイキャンのパヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード生産者団体の女性たち(SPNP: パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達)とともに、生産・購入過程における①生産者のエンパワメント、②生産者の収入向上、そして販売過程において③貧困問題に対するメッセージ性と④収益性、⑤「できること(ICAN)」の実践としての場の提供を目的として、フェアトレード事業を行いました。

(2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務局がボランティア、他機関・団体の協力を得て事業実施、運営。

(3) 実績

SPNPの団体運営を支え、モニタリングを行いながら、商品開発やバザーの出展を補助しました。またSPNPのフェアトレード製品を買い上げ、日本とフィリピンでイベントや学校祭、事務所、ホームページ、また委託契約を結んでいる店舗を通じて販売しました。その結果、多くの方々に貧困問題の深刻さや公正な貿易の必要性、そしてアイキャンの理念や活動を知っていただく機会を提供できたとともに、1,859,965円の収入となりました。

1) 委託店

① 継続6店舗

オゾン、ぎたんじやり、チャパカ、ドリーム、名古屋YMCA、風"s

② 新規7店舗

くれよんBOX、バオバブ、kogomi、ワールドジャンクション、飛騨高山ティベアエコヴィレッジ、風屋、まなかまな、

2) イベント等での販売

想念寺、アフリカ広場、アースデイ東京・愛知、連合メーデーフェスティバル、名大祭、デンソーエコシフト村、フジロックフェスティバル、全国ボランティアフェスティバル、環境デー、安城子どもまつり、グローバルフェスタ、AHIオープンハウス、TOYOTA ROCK FESTIVAL07、NPOまつり、ワールド・コラボ・フェスタ、平針教会バザー、名大祭、愛知医科大学医大祭、南山大学学園祭、日本福祉大学学園祭、あーすフェスタかながわ、国際基督教大学

3) フェアトレード勉強会の開催

他団体主催セミナー参加(7月)

アイキャン主催フェアトレード勉強会(9月)

(4) 特記事項

パヤタスの住民組織SPNPの組織運営は順調に行われており、バザーの出展も現在は単独で行うことができています。フィリピンのNGOや教会、企業にも技術をアピールし、仕事を受注することが可能になりました。また地域の女性へ裁縫を教えるなど、順調に効果の拡大が見られます。の販売面では、取り扱い店舗開拓とイベントでの販売強化に力を入れ、取扱い店舗数、収入の増加につながりました。また、在庫整理法の見直し、店舗情報のデータ化、イベントでの販売方法のマニュアル化等の効率化を進め、よりスムーズな発注、販売が可能になりました。

(5) 2008年への展望

フェアトレード事業のプロセス全てが、ボランティア・インターンを中心に実施される体制を確立していく。また、SPNPの独立後3年目になるため、上述の5つの目的を再度評価した上で、質の高い事業運営を行っていきます。

IV、災害緊急支援プログラム

1、レイテ島災害管理事業



(1) 事業内容

2006年2月17日南レイテ島セントバーナードで大規模な地滑りが発生し、住民およそ1800人と45ヘクタールにも及ぶ集落が一瞬にして土砂にのみ込まれました。アイキャンはこの直後から義援金を募り、フィリピンのNGOとともに緊急救援物資提供をおこないました。その後、2006年4月から2007年4月までは、第二期活動として「ギンサウゴン村・サグアンゴン村での災害管理および災害による被害緩和プログラム」(英語名 Recovery from Disaster: Disaster Preparedness and Mitigation Program in Guinsaugon and Sug-angon)を実施し、人々の生活の復興に取り掛かりました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が、フィリピンの災害専門NGOであるCDRC (Citizen's Disaster Response Center)とLCDE (Leyte Center for Development)と共同で実施。

(3) 実績

1) 生計向上の活動

危険地区として指定され避難生活を続けていたサグアンゴン村の住民に対して、種籾や農具(ショベル・鍬)、家畜の支給に加え、生計向上の様々なトレーニングを提供しました。その結果、やぎや豚の飼養、稲作が順調に進み、住民が自分たちの手で新たな生計の基盤を作る後押しをすることができました。(地域計画作成、災害管理訓練、リーダー育成訓練等の活動は2006年に実施)

2) モニタリング

CDRCとLCDEを通じた被災地でのモニタリングを随時行うとともに、地域開発の観点からマニラ事務所スタッフも2月と

7月にモニタリングを実施しました。

3) 義援金寄付者への最終報告書を7月に発送しました。

(4) 特記事項

生計向上事業を通して、住民の収入源の多様化に直結する成果を得ることができました。種子銀行の制度を通じた種子の貸付けにおいても、各住民(小グループに分かれて活動を運営)のほぼ全員が払い戻しに成功し、他の住民への種籾の貸付けにつながるなど、期待以上の波及効果が得られました。7月の事後モニタリング時には、不足していた子豚を購入し、家畜用の緊急医療費の補助などを住民組織に対して行い、事業終了後も、ニーズや状況の変化に応じ、成果を持続させるための適切な対応を取ることができました。

(5) 2008年への展望

本「災害支援緊急プログラム」はレイテ島の災害発生直後緊急措置として開始したため、2008年以降の活動は予定しておりません。しかし、災害が頻発するフィリピンにおいて事業を実施していく上で、次の事柄を検討すべき項目として列举しておきたいと思います。1つ目は、災害時の権限規定を作成、及び災害緊急支援予備費の設置です。災害時の権限を明確にすることにより、意思決定を迅速に行うことができます。そして予備費をあらかじめ計上することは迅速な活動開始を可能なものとします。2つ目はネットワークの形成です。フィリピン側では災害系NGOや政府機関とのネットワークは確立されていますので、日本での災害に関連する団体とのネットワークを形成する必要があります。3つ目は、通常の社会開発事業において災害管理の活動を取り入れ、より災害に強い地域作りを目指していく必要があります。

ICAN～私にできること～

アイキャンは「一人ひとりができること(ICAN)を持ち寄り」活動しています。2007年度も、みんなの想いが「カタチ」になった場面にたくさん出会えました。そんなみんなの「ICAN(～私にできること～)」をご紹介します。

ボランティアの月1回の交流会&勉強会の開催。



「初めまして！ICAN(事業説明会)」の企画・運営。ボランティアメンバー増加につながりました。



ボランティアがデザインしたTシャツ。イベント・街頭募金で大活躍！



ボランティアによる「笑顔の写真展」の企画・運営。いい写真が集まりました！



報告会の司会や受付など、運営面でもお世話になってます。



ボランティアによる街頭募金の企画・運営



フェアトレードに関わるボランティア



ボランティアを中心にお花見やBBQ、紅葉狩など、お楽しみ企画も開催！



イベント等でのフェアトレード商品の販売・活動紹介

名古屋近郊で活動するICANのボランティアから生まれた「ICAN探検隊」や、東京で活動を担う「ICANボランティアグループ」、マニラで様々な事業に関わるボランティアなど、アイキャンは多くのボランティアさんの活躍によって、2007年も運営されてきました。2008年以降もみんなの「できること(ICAN)」を持ち寄り活動を進めていきます。

御礼！ケアセンター完成！

2005年11月より取り組んでまいりました「ケアセンター改築キャンペーン」は、2007年10月に無事改築を終えることができました。心より感謝申し上げます。期間中、大幅な円安、そしてガソリン価格高騰による材料費の20%以上の値上げに際し、建築デザインの見直しを迫られたことや、市からの建築許可申請、パヤタスという土地柄、土地取得にも大幅な時間がかかるなど想定外の事態が多数発生いたしました。皆様のご協力と応援により、様々な問題を乗り越えることができました。これにより、パヤタスの人々の保健環境が飛躍的に向上することが期待できます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新ケアセンター外観



広くなった診療スペース



完工式の様子



こどものこえ

アイキャンは、経済的、社会的、政治的の弱い立場にある子どもたちと「ともに」活動をしてきました。「危機的状況に置かれた子どもたち」がどのようなことを考え、どのように感じ、どのように自分たちが置かれている状況を認識しているのか。子どもたちの「現実」を知るために、そしてその現実に基づいて、ともに社会を変えていくために1冊の本を作りました。



目次

謝意

はじめに

フィリピン地図と「こどものこえ」の子どもたち

1章 路上の子どもたち

■ こどものこえ 1(アリエール、イザベル、ポール、ニコル)

■ コラム 「子どもの教育と権利」

2章 身体的障がいを持つ子どもたち

■ こどものこえ 2(ベイビー、アリス)

3章 自然災害の被害を受けた子どもたち

■ こどものこえ 3(カルロ、アルドウィン)

■ コラム 「現在のフィリピン教育制度」

4章 紛争の影響を受けた子どもたち

■ こどものこえ 4(タヤ)

■ コラム 「生まれたときからある格差」

5章 先住民族の子どもたち

■ こどものこえ 5(マデット、ジェイソン)

■ コラム 「ブラアン族の子どもたち」

6章 海外出稼ぎ労働者の子どもたち

■ こどものこえ 6(シェイラ、ジュンジュン)

■ コラム 「数字から見えるもの」

7章 ごみ処分場周辺に住む子どもたち

■ こどものこえ 7(ジェラード、セバスチャン)

■ コラム 「パイをどう分けるか」

■ コラム 「歴史から見た教育のあるべき姿」

おわりに

発行団体概要



お腹いっぱい食べたい

警察官に
なりた

希望

夢

本当は
できることが
たくさんあるんだ。



学校に通って
勉強がしたい

家族揃って
楽しく暮らしたい



そんな子どもたちの「こえ」に耳を傾ける。
危機的状況にある子どもの「ために」何かをするのではなく、その子どもたちが声をあげ、その「現実」に基づいて、「ともに」社会を変えていくために。